

# 取り扱いおよび リリースガイド

ニュージーランドの漁業水  
域における保護種の関与  
について。



Department of  
Conservation  
*Te Papa Atawhai*

## このガイドの目的

このガイドは、保護サービスプログラムの保護種の混獲の取り扱いと処置のベストプラクティス方法に関する情報に漁師が簡単にアクセスできるように設計されています。

漁師は、生存の可能性を最大化するために、すべての保護種を適切に処理する責任があります。保護種の取り扱いを誤ると、生存の可能性が大幅に低下し、種の持続可能性に長期的な悪影響を与える可能性があります。

適切な処理の慣行は、乗組員の傷害のリスクも低減します。このガイドは次の情報を提供しています：

- 正しい処理方法と誤った処理方法。
- ニュージーランドの漁業水域で捕獲される主な保護種のグループ。
- 乗組員の安全性を高めるための対策。



Department of  
Conservation  
*Te Papa Atawhai*

# 取り扱い原則

ニュージーランドの漁業では、保護種の関与をすべて記録することは法的要件となっています。商業的漁業中に保護種を誤って捕獲することは違法ではありませんが、保護種の捕獲の報告を怠ることは違法です。

## 原則1

ボートと乗組員の安全が最優先事項。

乗組員は、保護種を扱うときは常に個人の安全を優先しなければなりません。切り傷、噛み傷、刺し傷から保護するために、適切な個人用保護具 (PPE) の使用を徹底してください。

## 原則2

あらゆる妥当な措置を講じること。

保護種を生きたまま解放するためのあらゆる配慮が必要です。動物へのストレス軽減のための措置を講じ、危害や怪我が最小限に抑えられるように注意して取り扱ってください。

## 原則3

保護種を海に返す。

操業者は、付随漁獲物が現実的に可能な限り早く、生存の可能性が損なわれない方法で水に返されるように、あらゆる妥当な措置を講じることが求められます。

## 原則4

保護種の保管。

死んでいる保護種を部分的であれ保管することは、1953年の野生生物法のもと違反となります。漁業オブザーバーが要求しない限り、すべての動物を海に戻さなければなりません。

## 原則5

すべての保護種の関与を記録する。

船舶への衝突 (船舶に衝突し、自発的に飛び立つことができない海鳥) を含む、保護種の関与をすべて記録します。漁業オブザーバーは、保護種の関与について独自のレポートを提出しますが、これは捕獲内容を報告する船舶の義務を取り消すものではありません。

## 原則6

トリガー限界管理を把握する。

トリガー違反が発生した場合は、24時間以内に連絡担当者に通知してください。

# ベストプラクティスの取り扱い

このセクションでは、漁師が遭遇する可能性のある保護種に関するベストプラクティスの取り扱い手順を概説します。

漁獲後の生存可能性を最大限に高めるため、保管されない種を慎重に取り扱うことが重要です。適切な処理慣行は、乗組員に傷害を与える可能性のあるリスクも低減します。

## 目次

海鳥	1
アザラシとアシカ	4
イルカとクジラ	6
サメ類	8
エイ類	10
ウミガメ類	12
ウミヘビ	14



Department of  
Conservation  
*Te Papa Atawhai*

**まず考えてください：  
海鳥の周りの安全**

大型の鳥は深刻な噛み傷を引き起こすことがあります。海鳥を扱う場合は、手袋や目の保護具の着用を推奨します。

噛まれたりひっかかれるのを避けるため、くちばしと足はしっかりと固定します。

鳥を腰の高さに持ち、顔から遠ざけます。



**足とくちばしを固定します**

ニュージーランドのすべての海鳥は、オオカモメを除いて保護されています。海鳥に対するリスクは、漁獲作業と多数の海鳥の採餌が同時に行われている場合に最も高くなります。

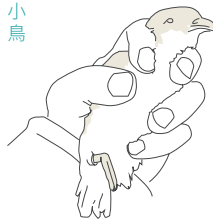
網上に海鳥がいることに気付いた場合は、網が引っ張られるのを低減するため、船舶を停止してください。鳥が手の届くところに来たら、手またはネットを使用して船上に優しく持ち込みます。さらに怪我をする可能性があるため、網にかかった状態で鳥を引き上げないでください。翼が折れる可能性があるため、翼の先端で鳥を扱わないでください。

1名の乗組員が鳥をおさえ、別の乗組員が慎重に漁具を動物から放します。

**小型の鳥：ウミツバメ、モグリウミツバメなど。**

鳥は、背中が手のひらに面するように片手で持ち、首を人差し指と中指で挟みます。

小鳥



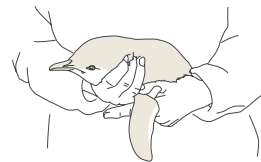
中型の鳥



大型の鳥



ペンギン



**中型の鳥：例えば、ウミツバメ、ミズナギドリ類。**羽を折りたたんだ状態で鳥の体を持ちます。頭も拘束する必要がある場合は、鼻孔を覆わないように鳥の首またはくちばし部分を持ちます。

**大型の鳥：アホウドリなど。**胴体と折りたたまれた翼を腕に抱きかかえるか、鳥をかがめて、足で固定します。鼻孔を覆わずに首または嘴を保持して頭部を抑えます。

**ペンギン：**ペンギンの首をしっかりと持ってください。ペンギンを腕の下に置いてフリッパーを固定します。

**カツオドリとアシカ：**頭の後ろをしっかりと押さえ、噛まないようにグリップを維持します。鳥の翼を折りたたみ、体を保持します。法案を閉じたままにしないでください。

## 生きている海鳥が船上に降下した場合

- 海鳥が船上に降下したら、ゆっくりと静かに移動してください。
- 怪我を防ぐため、鳥の嘴は顔から離してください。
- 鼻孔をむき出しにしておくために、鳥の目と頭をゆるい布で覆い、落ち着かせます。鼻孔のないカツオドリの場合は、嘴をわずかに開いたままにしてください。
- 翼を静止位置に折り、鳥の体を優しくしっかりと保持します。胸に圧力をかけないでください。これは損傷を引き起こす可能性があります。テープやバンドで手形や脚を制限しないでください。

## フックを取り外す方法

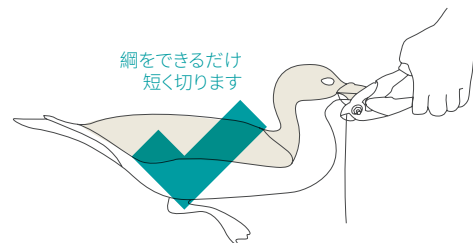
- 1人の乗組員が鳥を保持している状態で、別の乗組員は釣り道具を動物から取り外すことができます。

海鳥の目と頭をゆるい布で覆い、落ち着かせます



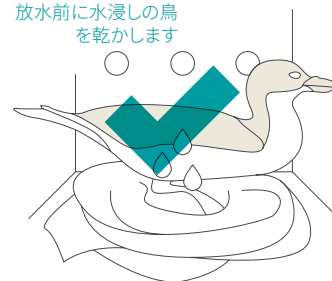
- 嘴や首にフックが露出していれば、切り取ることができます。組織を通してフックを引き戻す場合は、ペンチで触鬚(しよくしゅ)を平らにするか、スニップで切り取ります。
- フックを飲み込んだ場合は、できるだけ口の近くで綱を切ります。鳥の内側からフックを引き抜こうとしないでください。鳥の翼、体、脚の周りに捕まった糸を解き、切り落とします。

綱をできるだけ短く切ります



- 浸水した鳥は、放す前に乾燥させる必要があります。余分な水は布で注意深く拭き取ります。日光や風から離れた保護されたエリアに空洞があるボックスに鳥を置きます。箱の底部にタオルを入れて、鳥から余分な水を吸収するのに役立ちます。暖かいホイールハウスやガレーに箱を置かないでください。羽毛が乾燥して、警戒している様子だと動物は安全に放出できます。

放水前に水浸しの鳥を乾かします



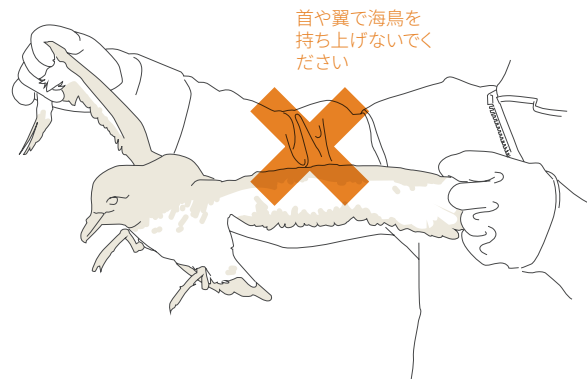
## 生きている海鳥を水に戻しています

- 鳥を放すには、船を減速または停止させ、デッキの手すりに座らせ、翼が開いたら飛ばします。自分で飛ばない場合は、ハンドネットで容器の横にゆっくりと下ろしてください。
- すべての捕獲を記録し、動物に付けてあるレッグバンド番号を記録します。動物が死亡しており、検死のために陸上に戻されていない場合は、鳥を海に戻す前に脚のバンドを記録するか、撮影する必要があります。



船を遅らせたり停止させたり、デッキの手すりに座ったり、翼が開くと飛ぶことができます

## 不適切な取り扱い



- 海鳥と直に接触する際、ギャフや鋭いオブジェクトは使用しないでください。
- 船内で鳥を鼻で引っ張らないでください。
- 海鳥を激しく蹴ったり、叩いたり、投げたり、押ししたりしたりの身体的外傷にさらしたりしないでください。
- 海鳥を怖がらせるような突如の行動や動きは避けてください。
- 放出するときは、海鳥を空中に投げないでください。
- 海鳥の首や翼を持ち上げたり保持したりしないでください。

# アザラシとアシカ

## まず考えてください： アザラシとアシカの周辺の 安全性

アザラシは滑りやすい表面ではすばしいです。追い詰められると攻撃し、噛みつきます。

アザラシに噛まれると、ひどい裂傷や感染を引き起こす可能性があります。咬傷は徹底的に治療する必要があります。医師の助言または注意が必要です。



アザラシやアシカは、人間に感染する感染症を多く運ぶ可能性があります。海洋哺乳類の取り扱いは、常に最小限に抑える必要があります。

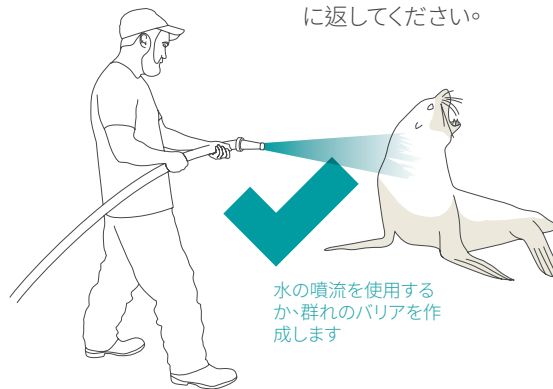
海に戻り死んだ海洋哺乳類は、再捕された場合、重複して数えることを避けるために、上顎または下顎の周りにひもで印を付ける必要があります。

### 生きた動物がデッキに漂着した場合

- アザラシはデッキに漂着したらすぐに放すべきです。
- デッキ上のアザラシは、逃げる可能性が最も高い場所の近くに制限し、船舶の他の部分へのアクセスは防ぐ必要があります。

### 生きたシールを水に戻します

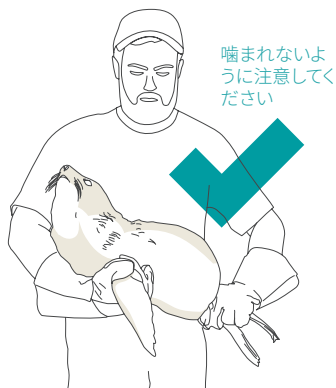
- 高圧ホースからのジェットによって動物を強制的に移動させることが可能です。木材またはパレットのシートは、アザラシの群れに対する移動バリアとしても使用することができます。
- シールが傷ついた場合、傷ついたシールのケアには専門家のスキルが必要であり、船上に置いておくと動物へのストレスが増加する可能性があるため、水に戻してください。



水の噴流を使用するか、群れのバリアを作成します



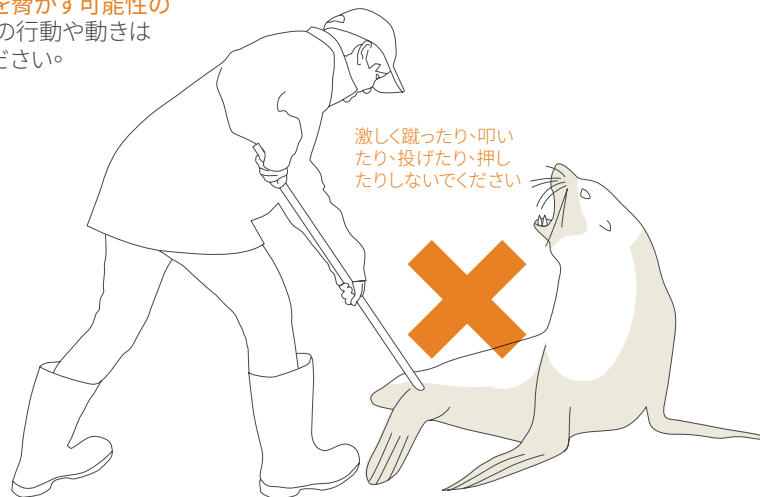
## 非常に小さな動物の取り扱い



- 小さなアザラシは、図のように片手で尻尾を持ち、もう一方の手で前足フリッパーを押しながら、腕でアザラシの腹を支えて持ち上げることができます。この方法を使用する場合は、咬傷に十分注意してください。

## 不適切な取り扱い

- シールと直接接触しているギヤフや鋭いオブジェクトを使用しないでください。
- アザラシを激しく蹴ったり、叩いたり、投げたり、押したり、他の身体的外傷にさらしたりしないでください。
- アザラシを脅かす可能性のある突然の行動や動きは避けてください。



# イルカとクジラ

まず考えてください：  
イルカとクジラの周囲の  
安全

イルカによるケガには、打撲、転倒、咬傷などがあります。

背びれの後ろにイルカを座らないでください。強力な尾部で蹴る可能性があります。



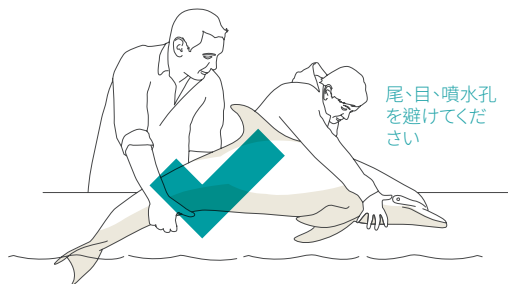
ニュージーランドの水域にはさまざまに保護されたイルカやクジラがいます。主にトロールや網漁業などの各種漁業で偶然捕獲されることがあります。可能であれば、イルカまたはクジラはデッキに持ち込まずに釣り道具から解放してください。

## 生きた動物がデッキに漂着した場合

- イルカはデッキに漂着したらすぐに解放する必要があります。

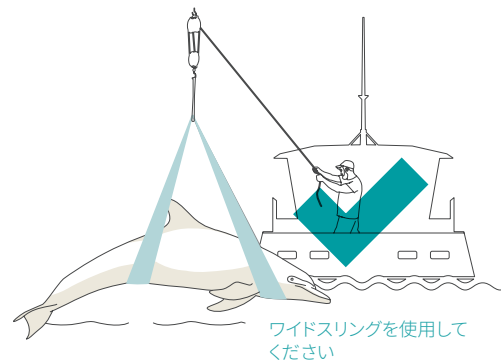
## 生きたイルカを水に返す

- 動物が釣り道具から解かれたら、水の中に慎重に放すことができます。
- イルカを持ち上げるには、2人以上の乗組員を要する場合があります。イルカは体の近くに胸びれを固定しながら、背びれの前で保持してください。尾部に注意し、目や噴水孔を避けてください。

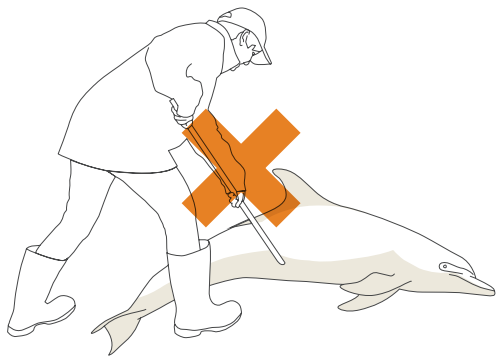


- または、幅の広いスリングを使用して動物を海に戻すこともできます。薄いケーブルは使用しないでください。

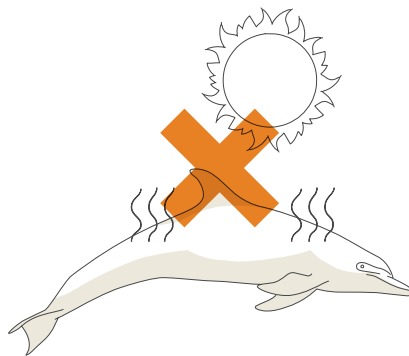
- イルカが怪我をした場合、怪我を受けた海洋哺乳動物のケアには専門のスキルが必要であり、船上では動物のストレスが増大する可能性があるため、水に返すべきです。



誤った取り扱い:

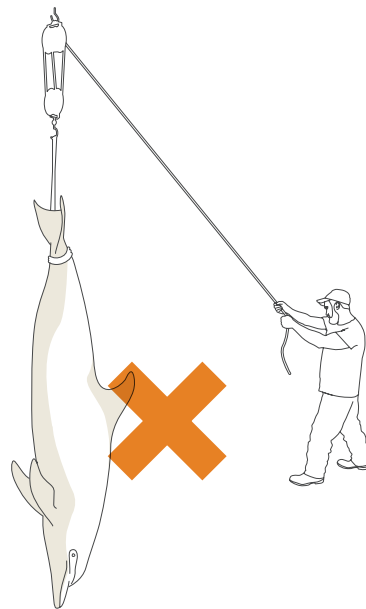


イルカを動かすために、蹴ったり、叩いたり、投げたり、押したり、ギャフまたはその他の鋭いオブジェクトは使用しないでください。



噴水孔に水を流したり、覆ったりしないでください。

イルカを長時間日光にさらさないでください。



イルカを怖がらせるような突然の行動や動きは避けてください。

脊椎を損傷する可能性があるため、イルカの尾部を持ち上げたり、引っ張ったりしないでください。

# サメ類

## まず考えてください： サメ周辺の安全性

サメはすべて生存しているものとして扱ってください。死んでいるように見えるサメでさえ、突然突発的な怪我をする可能性があるためです。

サメによるケガのには、打撲、転倒、咬傷などがあります。



可能であれば、サメの顎の周囲での作業は避けてください。噛まれるのを防ぐため、サメの顎の間に硬い物体を置きます。

ニュージーランドの水域には5種類の保護サメが生息しており、各種漁業で偶発的に捕獲されることがあります。

可能であれば、デッキに持ち込まずにサメを漁具から放してください。これにより、動物の内臓損傷のリスクは最小限に抑えられます。

### サメがデッキに漂着した場合

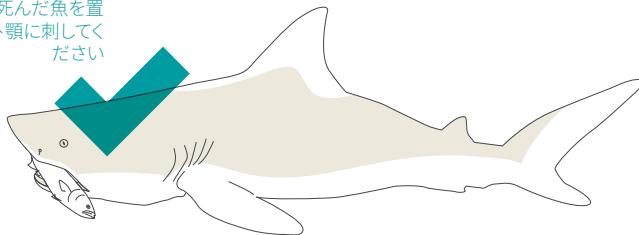
- 大きくアクティブな場合は、近づく前に疲れさせます。
- サメはすべて生きていますものとして扱います。
- 安全であれば、最初にサメを海に戻し、正しい方法で返してください。
- 大きさに応じて、サメの取り扱いに1~2人が必要になる場合があります。
- サメを水平にして横に保ち、内部損傷のリスクを減らしてください。

### デッキ上のサメの扱い

釣り漁業の場合：

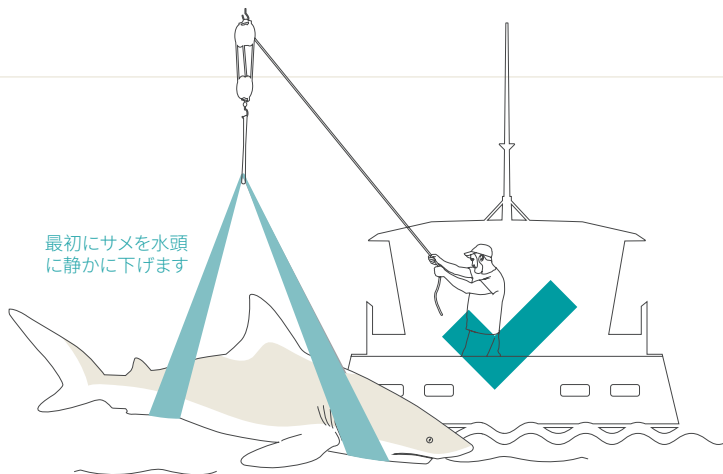
- 手袋や濡れたタオルを使用してサメを頭の後ろと尾の周りにしっかりと保持し、フックを外します。
- フックを簡単に取り外せない場合は、できるだけ口の近くで綱を切ります。
- サメを落ち着かせるには、サメを裏返しにするか、濡れたタオルを目の上に置きます。
- 放出を遅らせる必要がある場合は、サメのえらを水が流れるようにサメの口にデッキホースを取り付けます。

噛まれるのを防ぐためには、死んだ魚を置いたり、顎に刺してください

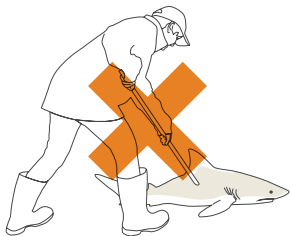


## サメを水に戻します

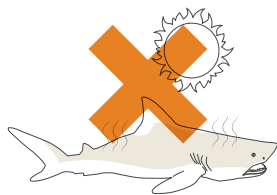
- 最初にサメを水頭に静かに下げて、放します。投げないでください。
- サメが泳ぐ前にサメの回復を助けるために、サメを潮流に向けて数分間泳がせる必要があるかもしれません。
- 小型のサメは一人で放出できます。
- 大型のサメは、サメを持ち上げて保持するために2人が必要になる場合があります。
- 非常に大きなサメを持ち上げるには幅の広いスリングの使用が必要な場合があります。
- 細いワイヤーやケーブルは使用しないでください。
- まだロープが固定されているサメは離さないでください。



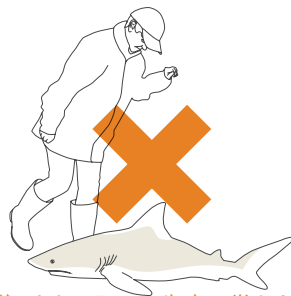
## 不適切な取り扱い



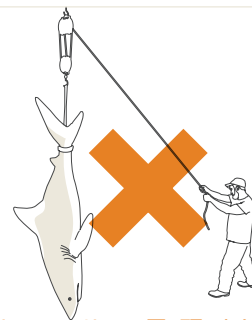
-サメと直接接触しているギャブや鋭いオブジェクトは使用しないでください。ギャブは綱を制御するためにのみ使用する必要があります。



サメを日光に長時間さらさないでください。



サメを激しく蹴ったり、叩いたり、投げたり、圧迫したり、他の物理的な外傷にさらしたりしないでください。



歯車に巻かれているサメを取り除くために、フィンやその他の身体の部位を切断しないでください。

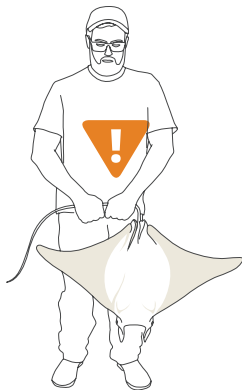
サメの尾、頭、または鰓孔は引き上げないでください。

## まず考えてください： エイ周辺の安全性

潜在的な傷害としては、絆倒、刺され、切り傷、保護性粘膜へのアレルギー反応が挙げられます。

できれば、エイはあらゆる方向に当たる可能性があるため、尾の周りでの作業は避けてください。

尾部を持ってエイを運ばないでください。

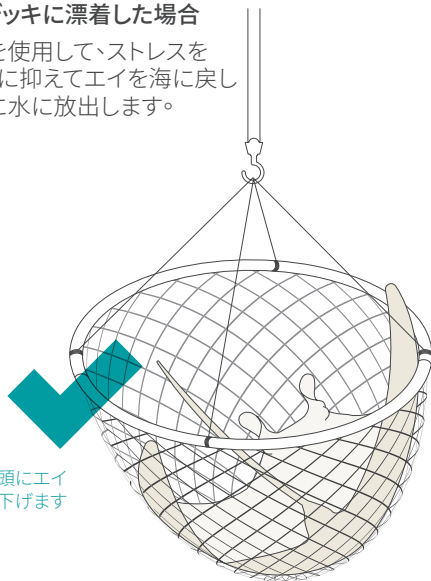


ニュージーランドの水域には2つの保護のエイ種があります。エイは様々な漁業で捕獲されていますが、一般的にはきん着網や水上延縄漁業で副漁されています。

できれば、ネットがまだ水に入っている間に保護されたエイを放出し、損傷やストレスを避ける必要があります。

### エイがデッキに漂着した場合

- ネットを使用して、ストレスを最小限に抑えてエイを海に戻し、最初に水に放出します。



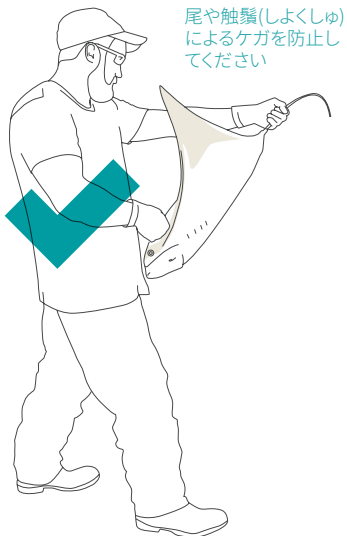
最初に水頭にエイを静かに下げます

### デッキでの生きたエイの処理

- 指を口から離して、エイを体から離して、尾と触鬚(しよくしゅ)によるケガを避けるようにします。
- 小型のエイの場合は、尾を隔離し、空気孔または鼻で持ち上げます。
- 中型のエイの場合は、尾を隔離し、鼻または空気孔(目の後ろの開口部)で引き上げます。
- 大型のエイの場合、動物をデッキに沿ってスライドさせて、処分シュートまたは甲板排水口に入れるのが最善です。エイはどの方向にも攻撃することができるので、必ず尾を見てください。

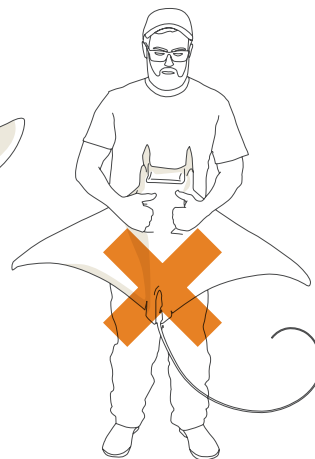
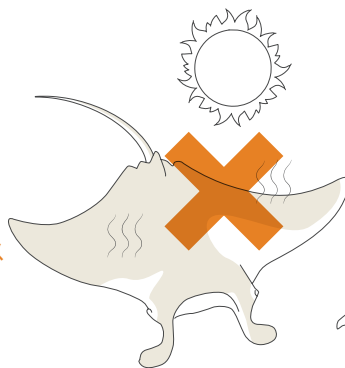
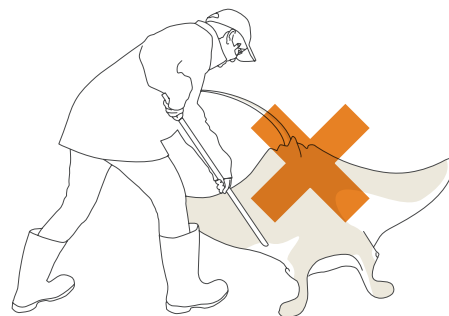
## エイを水に戻します

- 最初に小～中型のエイを水頭に静かに下げて放します。  
投げないでください。
- 大型のエイは、ネット、プラスチック、またはキャンパスの上に置いて、水中に上げ下げすることができます。



## 不適切な取り扱い

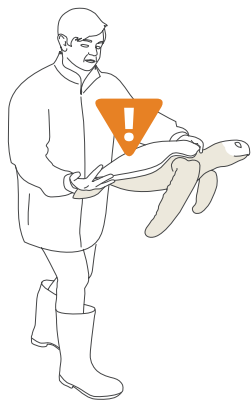
- エイと直接接触するガフや鋭利な物体は使用しないでください。
- エイを蹴ったり、叩いたり、投げたり、強く押ししたり、他の物理的な外傷にさらしたりしないでください。
- エイを長時間日光にさらさないでください。
- 刺されないように、尾部でエイを運ばないでください。
- 鰓孔でエイを持ち運びたり、移動したりしないでください。
- 光線の尾や刺傷を切断しないでください。
- 放出するためにロープやストロップを通すために、レイの翼に穴を切らないでください。



## まず考えてください： カメ周辺の安全性

フリッパーがシェルに押しつぶす場所に手を置かないようにしてください。

カメは強い顎を持っているので、噛まれないように、指、手、つま先をすべて亀の口から遠ざけてください。



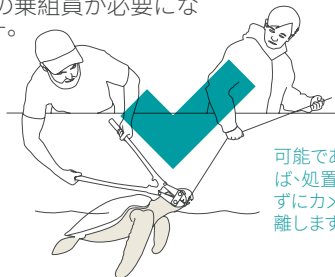
ニュージーランドの海域には5種類のウミガメの保護種があり、さまざまな漁業で偶発的に捕獲される可能性があります。最も一般的にははえ縄漁業で漁獲されます。

ライン上のカメに気づいた場合は、動物への外傷を軽減するためにゆっくりと動かしてください。

可能であれば、動物を慎重に容器に近づけて、処理しないカメは放し、可能な限り動物に近づけて長い柄のラインカッターで糸を切るか、またはフックを外すためにデフックを使用します。

### カメを船に持ち込む必要がある場合

- すくい網を使って船上に上げます。
- カメの取り扱いには細心の注意を払ってください。カメは強い顎を持っているので、指、手、つま先をカメの口から十分に離してください。フリッパーがシェルを押しつぶす可能性のある場所に手を置かないでください。片方の手で甲の前（頭上）ともう片方の手（尾の近く）で亀を持ち上げます。大型動物を持ち上げるには、2人の乗組員が必要になる場合があります。



可能であれば、処置せずにカメを離します

### 生きたカメのデッキでの処置

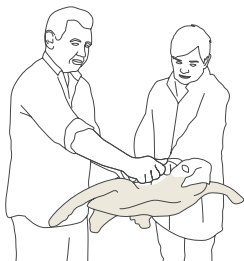
- カメが疲れてしまったり、生きていないように見える場合は、回復のために船上に上げる必要があります。
- 動物が動いていない場合は肺に水が入っているかもしれませんが、リヤフリッパーは最低4時間で、20 cm上がります。タイヤはこのための良いプラットフォームです。
- カメを日陰に置き、海水で濡れたタオルで覆い、鼻孔を露出させます。塩水を噴霧して濡れた状態を保ちます。
- 反射テストを使用して間欠的に回復を評価します：カメの尾を軽く挟んで反応を測定します。



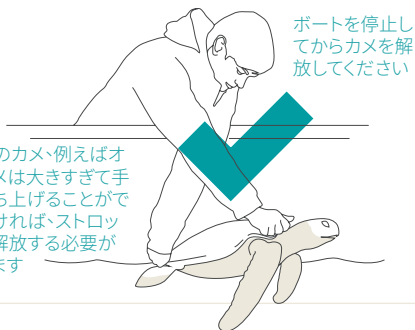
## カメを水に戻します



カメはシェル前後の中心から持ち上げます



- 放出後の感染や死亡につながる可能性があるため、切断を誘引するような方法で機器を使用したり、運ぶことは避けてください。
- 回復したら、ボートが静止してプロペラが作動していないときにまず動物の頭を放して、慎重にカメを船の最下点から水に戻します。また実行する前に、カメが容器からはっきりと離れていることを確認してください。

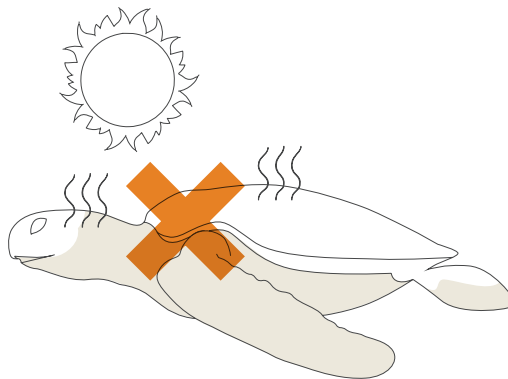
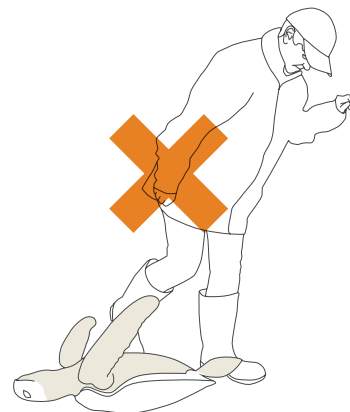


ボートを停止してからカメを解放してください

大型のカメ、例えばオサガメは大きすぎて手で持ち上げることができなければ、ストロップで解放する必要があります

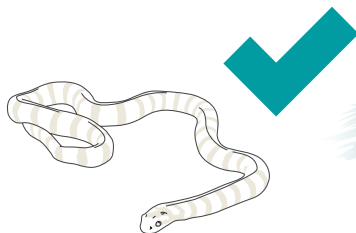
## 正しい取り扱い

- カメと直接接触するギャフや鋭い物は使用しないでください。
- カメを長時間日光にさらさないでください。
- カメを蹴ったり、殴打したり、投げたり、激しく圧迫したり、他の物理的外傷にさらさないでください。
- カメはこの位置で呼吸できないため、上下逆さまにしないでください。
- カメの尾部、フリッパー、またはシェルの側面を持つたり、持ち上げたりしないでください。



まず考えてください：  
ウミヘビ周辺の安全性

海蛇は非常に有毒なので  
処理しないでください。ヘビ  
は海中に戻し、デッキから  
ゆっくりと水でホースをか  
けます。



ヘビはデッキから  
軽くホースしてく  
ださい

